キャラクター名: 不二守 俊介

プレイヤー名:

シンドローム	ノイマン ブラックドッグ	ワークス	FHエージェントC	カヴァー	怪盗
オプショナル		年齢	25	性別	男
覚醒	憤怒	衝動	憎悪	初期侵食率	39 %
出自		経験	夢	邂逅	復讐

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2		0			2
感覚	1		0			1
精神	4	1	0			5
社会	1		0			1

HP	29
行動値	7
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	3		ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転：			芸術：			知識：	2		情報： FH	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
リニアキャノン	射撃	5r+1	0	13		ウェポンマスタリー込み
リニアキャノン	射撃	5r+1	0	13		ウェポンマスタリー込み
リニアキャノン	射撃	5r+1	0	13		ウェポンマスタリー込み
リニアキャノン	射撃	5r+1	0	13		ウェポンマスタリー込み

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
ウェポンマスタリー(ハードワイヤード)	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
達人（コントロールソート）	P	N		
顔のない男	P 執着	N 憎悪		
墓守清正	P 連帯感	N 不快感		
九鬼	P 尊敬	N 憐憫		
久保帯人	P 有為	N 憐憫		
姫	P 同情	N 憐憫		
バンディー・ライト	P 有為	N 恥辱		

最大財産P: 4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
ヴァリアブルウェポン	1	3	メジャー	射撃	-	対決	リミット	
効果：	攻撃に使用する武器と技能が同じ武器からLv個選択して攻撃力を加算する。							
マルチウェポン	5	3	メジャー	射撃	-	対決	-	
効果：	同じ技能の武器を2個足して攻撃できる。							
ハードワイヤード	4							
効果：	基本浸食率+4							
コントロールソート	1	4	メジャー	射撃	-	対決	-	
効果：	射撃を精神で代用判定する。							
生き字引	1	1	メジャー	-	-	対決	-	
効果：	情報を意思で代用判定する。情報収集の判定を+Lv個する。							
コンセントレイト：ノイマン	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	クリティカル							
コンバットシステム	2	3	メジャー	射撃	-	対決	-	
効果：	判定ダイスをLv+1個							
究極鑑定	1	-	メジャー	至近	-	自動	-	
効果：	未知のアイテムを分析する							
構造看破	1	-	メジャー	至近	-	自動	-	
効果：	人工的な機械や建造物などの構造を、見た瞬間に解析できる。							
電波障害	1	-	メジャー	視界	シーン	自動	-	
効果：	無線電波を使用した通信やレーダーを遮断する。							
セキュリティカット	1	1	メジャー	至近	-	自動	-	
効果：	セキュリティを切ったり、ロックを解除する。							
効果：								
効果：								

壊された玄関。血に染まった床。抉れた壁面。冷めた食事。片っ端からひっくり返された棚。頭と胴が離れた両親。
普通の高校生として生きていた私が視たのはそんな光景。
物取りにしてはやりすぎている。殺人にしては壊れすぎている。どう見ても、人間ができる範囲を超えている。
壊れた蓄音機のようにどうしてと繰り返す私を拾ったのは、FHという組織だった。

ソロモンの遺産と呼ばれる宝の研究をしていた両親。犯人はその研究成果を奪いに襲撃をしたのではないかと、そう告げた。
あなたには復讐の権利がある。そう嘯く彼らと行動を共にするうち、オーヴァードに目覚めた。

銃を構えて撃つ。宝を盗んで鑑定する。顔のない男の情報を探る。
ただひたすらそんな日々を送っているうち、エージェントの地位にたどり着いた。
現在は怪盗(ファントム)と呼ばれる単独のセルとして活動している。

募らせた殺意が冷え固まり、寝ても覚めても奴を想う。
そんな日常を終わらせ再び人として生きるために、あいつだけはこの手で殺す。